

2012年度スウェーデン幼児・児童教育研修（報告）

西浦和樹・松本晴子

宮城学院女子大学発達臨床学科では、学生の資質、能力、専門的知識を高めるために、学生参画型の教育プログラムの開発に力を注いでいる。その取り組みの一つとして海外研修を数年にわたって計画してきた。本研修に至るまで、スウェーデン王立リンショーピング大学と連携し、本学公開講演会やワークショップを企画して、海外研修の準備を進めてきたという経緯がある（レイニウス，2012；シェパンスキー，2010，2011）。それらを発展させて、本研修では、学生自らが異文化体験を通して、日本人とは違う価値観やライフスタイルを感じ、自らの価値判断の新しい材料を獲得していくことを目指した。

本稿の目的は、2013年2月17日（日）から3月1日（金）に実施したスウェーデン幼児・児童教育研修について報告し、今後の研修計画に資する知見を提供することである。

スウェーデンは、日本と比較して自然環境の保全に力を注いでおり、OECDの環境指数においても、日本24位であるのに対して、世界でトップとなっている（OECD，2012）。西浦（2012）の事前視察においても、スウェーデンは、アウトドアを活用した特色ある教育、アウトドア環境教育を実践しており、本学の教育や現任保育士教育の研修プログラム開発においても参考にすべき点が多い。

そこで、アウトドア環境教育において独創的で最先端の研究を行っているスウェーデン王立リンショーピング大学アウトドア環境教育センターの協力のもと、スウェーデン幼児・児童教育分野での海外研修を計画した。

【研修計画】

研修期間：2013年2月17日（日）から3月1日（金）の13日間。限られた期間で効率的に研修先を訪問しなければならないことを考慮して、西浦（2012）

を参考に、プリスクールから小学校、特別支援学校、自然学校、教員養成大学までの教育機関を訪問できるように設定した。

なお、本研修のスケジュールを計画後、最終的なツアー設計はアクティブツアーズに依頼した。（研修スケジュールは、別表1に記載。）

研修費用：29万円（一人当たり、食費、現地交通費を除く）。

事前準備：研修実施にあたって、研修の概要説明および研修募集期間（2012年4月11日、5月9日、5月16日）および研修事前指導（12月14日、12月20日、1月31日）を設定した。なお、本研修先での日本文化を伝えるために、「エーデルワイス」「ほたるこい」など、ペープサートを用いて紹介することとし、引率教員の松本晴子が事前指導を実施した。

参加者：全20名。引率教員2名、学生17名、通訳1名。

【研修報告】

本研修は、デンマークのコペンハーゲン国際空港から国際電車でスウェーデン入りし、マルメ市、ヘルシンボリ市、ヨーテボリ市、ノルショーピング市を経てコペンハーゲンに戻る周遊コースをとった。宿泊先はユースホステル（STF Vandrarhem）を拠点として、それらの長距離移動は貸切バス、市内の教育施設訪問は路線バスや路面電車などの公共の交通機関を利用した。この理由は、研修目的の一つであるスウェーデンのライフスタイルを学生に経験させるためであった。

次に、訪問先の研修施設は7ヶ所、各施設別に研修の概要を記す（研修施設情報は別表2、宿泊先ホテル情報は別表3に記載）。

研修施設1：ヘルシンボリ自然学校Miljöverkstaden（2013年2月20日9:00-13:00）

本施設では、校長のKlas Nyberg先生に案内さ

れ、ヘルシンボリの気候変動について考える施設 ATOMS2. 0、ソーラー発電や温度差発電などのエネルギー問題について考える施設 Energiverkstaden、自然学校の中心に位置する施設 Gubbhyttan を視察した。学生は、これらの施設内で行われる授業内容の説明を受け、実際にスウェーデンの食材を使った昼食づくりに挑戦した(図1)。また、我々を案内してくれた Bert Hässan 先生は、プリスクールクラスを対象とした教材を用いて、用意した素材が水に浮かぶかどうか、あるいは箱の中のヒントを頼りに動物を推測するなど仮説検証型の授業を展開してくださった。ここでの視察では、身近な素材を活用した学習によって子どもたちの学習意欲を高める工夫が感じられた。



図1 スウェーデンの食材を使った野外炊飯。学生たちは素材の違いに戸惑いながら料理に取り組んだ。

研修施設2: アウトドア環境教育推進校 Eriass Fries Skolan (2013年2月21日9:00-13:00)

本教育施設は、人口5,000人程度のスウェーデン南部に位置する小さな山村のプリスクールと小学校が併設された学校である。まず、日本に滞在経験のある Susanne Gudda 先生からヒルテパルクの歴史、学校が建設された経緯、環境に配慮した校舎の設備などの紹介を受けた。また、スウェーデンが移民の国であり、小学生に対する宗教の授業にも反映されているとの説明を受けた。

続いて、プリスクールの子どもたちがノルディック・スキーの大会を模して校庭を周回している

というので、その様子を見学した(図2)。子どもたちは10周終わるとゴールになり、途中給水所には温かいブルーベリーのジュースが用意されていた。途中、疲れたのか、うまく行かずに泣き出す子どももいたが、「ヘイヤポー (Heja på: ガンバレ)」と皆で応援すると、子どもたちの力強く完走する姿が見て取れた。

その後、学校の敷地を縦断する小道を使って、アウトドアで実際に用いられる数学教材の解説を受けた。ここでは、大きさや形の違う木片を分類したり、ロープを用いて様々な図形を作ったり、4人がロープを使って協同作業したりして、数学に関する概念学習を行っているとの説明を受けた。また、印象的だったのは、この学校では、子ども個人の学習履歴を一冊のノートに記録しており、子どもの年齢が上がるにつれて、ノートの内容が詳細に記録されていることが紹介された。



図2 ノルディック・スキーを楽しむプリスクールの子もたち。

研修施設3: アウトドア環境教育推進校 Nole-redsskolan (2013年2月22日9:00-14:00)

研修先は、ヨーテボリ市内の宿泊先から路面電車とバスを乗り継いで50分程度の郊外に位置するトルスランダ地域にある。到着後、担当の Kristina Thorshag 先生に、職員室まで案内され、温かいコーヒーとブッレ (Bulle: シナモンロール) をごちそうになった。準備が整ったところで、4年生の子どもたちと一緒に、授業が行われる近所の森に出かけることになった。

参加者は、数字カードを伏せた状態で手渡され、それを襟の後ろにクリップし、できるだけ少ないヒントで自分の数字を当てるように指示された。既に、この時点から授業が開始していたのだ。この簡単なエクササイズも数字に対する感覚を身につけさせるために工夫されたものであることが理解できた。森に入ると、子どもたちが作った橋を通過して、5分ほどで広場に到着した。ここでは、「メローナ(Melona: メロン)」という掛け声で丸く円形になるよう指示され、小川に船を浮かべて遊び、バイキングの歴史について学ぶ夏場の利用の仕方についての説明を受けた(図3)。また、新築中の小屋の前で、子どもたちが火の取り扱い方を教わっていることについても説明を受けた。その後、1グループ10名程度に分かれて、もつれたロープをほどくゲームに参加したり、1グループ7名が数珠つなぎの状態、5枚の20cm四方の段ボールを用いて、できるだけ早く協力して20m先のゴールにたどり着くゲームの様子を観察した。いずれも立体物に対する感覚や身体感覚を意識した遊びとなっており、同時に協力して問題解決することを目的としているのがわかった。

森から学校に戻り、児童と一緒に給食をとった後、各クラスの授業の様子を見学し、本時の活動計画と理論的背景に関するアウトドア環境教育セミナーを受講した。ここでは、本時の活動が、準備、導入、活動、デブリーフィング、フォローアップの過程として計画され、子どもたちの動機づけを高め、さらに子どもたちの積極的な活動を引き出す効果をもつとの説明を受けた。また、セミナー終了後、「Rönn」という木で作った木笛の製作方法を丁寧に解説して頂いた。

研修施設4: 特別支援学校Skarphagsskolan (2013年2月25日9:00-12:30)

訪問時は、17名が二つのグループに分かれ、別のクラスの授業を見学した。第一グループは、7名の障害のある児童が通うクラスで、1名の教師と補助教員4名による授業を見学した。授業の内容は、コミュニケーションを中心とした活動で、子どもの写真に名前が書かれたカードをクイズ形式



図3 学生らは、Noleredsskolanの児童が実際に活動する森に案内され、アウトドア環境教育の研修を受けた。

で教員が読み上げることから始まった。また、日めくりカレンダーを使って、今日の日付を確認することも同時に行った。これらの活動では、教員がカードを提示する際に子どもの注目を集めるように工夫していたことが印象的であった。

その後、体育館に移動し、ダンス専門の教師が新たに加わり、音楽に合わせて身体を動かすダンスの授業が展開された。これらの活動では、教科に関する学習よりは、日常の生活訓練の意味合いが強い授業が行われており、子どもたちの集中力を維持するために、活動時間が短く設定されていた。

第二グループでは、5名の児童が通うクラスで、音楽療法士と思われる女性の指導者を中心とした授業を見学した。この授業では、指導者の歌に合わせて、①丸い大きなゴムボールをポンポン叩く、②足踏みや手拍子をする、その後、CDに合わせて、①身体を軽く動かす、②鈴かマラカスを選ばせて音楽に合わせて動かす、といった機能回復訓練が行われた。これらの活動では、比較的重度な児童に対して、少しの表情の変化、握る、触れる、叩くなどの行為を詳細に観察し、機能回復を促す工夫が行われる様子が確認できた。

その後、精神的に不安定な子どものために用意された特別な個室を案内された。この部屋で、子どもは薄暗がりの中で音楽を聴き、身体がすっぽりと覆われるクッションに包まれることで、寝転が

りながらリラックスすることができる。また、精神的に落ち着いた状態を保つことができるとの説明を受けた。

特別支援教育の実践を見学した後、二つのグループは一つの教室に案内され、今回の活動の概要とスウェーデンの特別支援教育について説明を受けた(図4)。スウェーデンの特別支援教育(Grundsärskola)では、学習障害の子どもを受け入れ、個別の指導計画により教育を受ける権利が保障されている。特別支援教育を受けるかどうかは、心理検査、医学検査、社会調査、教育的な専門家の所見に基づいて判断されるが、最終的な判断は保護者に委ねられている。この特別支援教育は、比較的程度の軽い子どもたちの訓練の場としての特別支援学級(Träningssskolan)、さらに今回訪問した特別支援学校(Grundsärskolan)に分類される。

スウェーデンの特別支援教育について、障害をもった子どもは、普通学校と同じ敷地内で教育を受けるが、障害の程度に応じて適切なクラスに割り振られ、機能回復訓練を受けることができるように配慮されている。しかし、訪問時の昼食の時間に象徴されるように、子どもの障害の程度に関わらず、普通学校と特別支援学校の子どもの同じランチルームで楽しそうに食事をする子どもたちの姿が印象的であった。同じ敷地で生活することのメリットとして書き記しておく。



図4 二人の教員からスウェーデンの特別支援教育について説明を受ける学生たち。

研修施設5: リンショーピング大学ノルショーピングキャンパス社会福祉学部(2013年2月25日 14:00-16:30)

リンショーピング大学は二つのキャンパスをもち、就学前教育の教員を養成するコースは、ノルショーピングキャンパスに設置されている。今回の訪問では、社会福祉学部のコーディネーターAnderz Grunnesjö先生のご厚意により、スウェーデンの就学前教育についてPolly Björk-Willen先生、就学前教育の教員養成プログラムについてAnna Ericson先生、技術と科学の授業についてClaes Kasander先生から講話を頂くことができた。

スウェーデンの就学前教育について、1975年当時は厚生労働省(The National Board of Health and Welfare)が計画を策定しており、「自我の発達」、「概念形成」、「コミュニケーション能力」に焦点づけていた。1987年には、「自然」、「文化」、「社会」という内容が組み込まれ、学習は継続的であるという考えのもと、「子どもと環境の相互作用」と「学習の動機づけ」の考えが強調されるようになった。

また、スウェーデンの教育制度は、プリスクールクラスといわれる就学前クラスが6歳に設定され、義務教育が7歳から始まるという仕組みをもつ。教員資格を得るためには、プリスクールクラスから4年生までの教員(Teacher)資格は大学4年間のコースを履修しなければならない。一方、プリスクールクラスを含む就学前教員(Preschool teacher)資格は3.5年のコースを履修必要がある。また、保育士(Child minder)資格は高等専門学校(Special high school)を卒業することで得られる。付け加えると、スウェーデンでプリスクールの教員のためのプログラムは、210単位を取得する必要があり、3.5年間の中で30単位の教育実習を履修する必要がある。

スウェーデンの就学前教育の方法について、モンテッソーリ教育、レッジョ・エミリア教育、シュタイナー教育、宗教教育、アウトドア保育といった教育方法が導入されていることも紹介された。

スウェーデンの教育要領Lpfö98(1998, 2010年改定)では、プリスクールクラス、学校、児童館(Leisure-time center)の連携、フォローアップの必要性について生涯学習の考え方が盛り込まれ、さらに優秀な子どもを育てるために、言語と数学、自然科学と技術の教育に力を注ぐことが明記された。このような教育要領の改訂にあわせて、スウェーデンでは、アウトドアで数学的な概念を教えるための教授法が開発され、またそれらを広く普及させるための研修会が開催されるようになった。二人の教員によるスウェーデンの幼児教育セミナーに続いて、実際に身体を動かしてのワークショップが開催された(図5)。学生は「ロボットを操縦する」ということをテーマにして、スーパーマリオのゲームに見立てて、プレイヤーがコントローラーを操作し、マリオをスタート地点からゴールまで操縦することが求められた。全てのアイテムを人が演じるという点で、協同作業が必要なゲームとなっており、単なる技術と科学の授業を越えた内容となっていたことが印象深かった。



図5 実際に身体を使ったゲームを取り入れながら、「技術と科学」のワークショップによる研修を受ける学生たち。

研修施設6: リンショーピング大学大学院アウトドア環境教育セミナー(2013年2月26日 9:00-10:30)

アウトドア環境教育センターのAnders Szczepanski先生からセンターで行われている修士課程プログラムの概要およびスウェーデンのプリ

スクールにおける保育実践が紹介された(図6)。具体的には、森の清掃、豚や鶏の飼育、園庭の花壇づくり、森の木々を使った基地遊び、どろんこ遊び、コンポストづくりなど、子どもたちが協同して作業する様子を通して、地域に根ざした能動的学習(Place based active learning for health)と持続可能な学習(Learning about sustainability)に関する考え方を理解することができた。



図6 リンショーピング大学でアウトドア環境教育セミナーの研修を受ける学生たち。

研修施設7: プリスクールLorensborgs Fölskola(海洋科学センターSEA-U)(2013年2月27日 9:00-11:00)

マルメ市にある海洋科学センターSEA-Uは、デンマークとスウェーデンの国境となるエーレスンド海峡に活動拠点を構える組織である。今回は、冬の海での活動は難しいため、プリスクールで海洋生物に関する音楽活動を行うということで、Lorensborgs Förskolaでの教育活動を視察した。活動の視察に入る前に、Michael Palmgren氏とHansson Peder氏により、夏のバルト海での環境保全活動、音楽を用いた生物多様性に関する啓蒙活動などSEA-Uによる特色ある教育活動が紹介された(図7)。

さらに今回のような冬場には、海を使わずに、海洋生物を知らない子どもたちに対して、動物のパペットを用い、音楽に合わせてダンスしたり、歌を

歌ったりする教育活動が中心となる。そこで、本プリスクールで実際にパフォーマンスを見学することとなった。パフォーマンスの内容は、生バンドの演奏によるオリジナルの歌と物語が中心となっており、子どもだけでなく、大人にとっても心地良く響く楽曲が印象的であった。パフォーマンスの中心となっている女性は、教員養成でドラマのトレーニングを受けており、それを活かして現在の活動を行っているとのことであった。また、ここでの1回のパフォーマンスは、子どもたちの集中力が持続する30分以内に収まるように工夫しているとの説明を受けた。なお、物語の内容は、子どもが普段から海洋生物に親しめるように、絵本として出版されている。



図7 プリスクールでの研修を終え、プリスクールの前で、SEA-Uのバルムグレン氏と共に写真撮影。

【研修のまとめ】

本研修では、13日間のスウェーデン幼児・児童教育研修を通して、スウェーデンの教育の実際に触れることができた。特に、全ての研修先に共通することは、スウェーデンの教育がPISAとTIMSSの国際学力調査の結果を強く意識し、数学の学力底上げを図ろうとしていることである。しかも、日本の教育が重視するスキル教育に偏重することなく、動機づけを高める教育方法の検討が行われ、その一つとしてアウトドア環境教育が注目されていることである。また、我々の視察中にスウェーデン政府が決定した事項として、プリスクールから高等

学校までの教員の給与を月6万円程度補助することがある。この決定は、近隣のフィンランド教育を強く意識し、優秀な教員の確保を目指しているからであろう。

本研修では、冬季におけるスウェーデン国内の教育施設の視察となり、季節の変化に応じたアウトドア教育の実践の一部を視察するに留まった。今後、このような学生参画型の海外研修を契機として、参加学生や教員が継続的に保育実践を視察すること、あるいは海外での保育実習を体験することを通して大学間での交流に発展することを期待する。

また、スウェーデン到着後の数日間で体調を崩す参加者が複数見受けられたこと、週末の市内散策はセキュリティの点で若干の不安を感じる出来事があったことを併せて記しておく。

【引用文献】

- 西浦和樹(2012)アウトドア教授法による思考力の発達に関する教育心理学的研究. 宮城学院女子大学発達科学研究, 12, 11-38.
- OECD, OECD Better Life Index, <http://www.oecdbetterlifeindex.org/> (Retrieved: 14 March 2013)
- レイニウス・K. (2012) 第1回研究会 スウェーデンの環境政策・環境教育とエコツーリズムの課題. 宮城学院女子大学発達科学研究, 12, 93-96.
- Skolverket, Curriculum for the Preschool Lpfö98 Revised 2010, http://www.skolverket.se/polopoly_fs/1.163849!Menu/article/attachment/L%C3%A4roplan_f%C3%B6rskolan_eng_tillg_webb.pdf (Retrieved: 14 March 2013)
- シェパンスキー・A. (2010) アウトドア教育: 都市や農村でのランドスケープに関連づけた本来の学び: 環境教育と健康教育を持続可能な学習(文学教育及び感覚経験)に結びつける方法: 学習の場所、物、理由、時間についての展望. 宮城学院女子大学発達科学研究, 10, 83-98.

シェパンスキー・A. (2011)2009年度 第2回公開
講演会 野外で学ぶことの大切さ:スウェーデン
のアウトドア環境教育に学ぶ. 宮城学院女子
大学発達科学研究, 11, 67-74.

【謝辞】

今回のスウェーデン幼児・児童教育研修の実施
にあたり、我々の訪問を快く受け入れていただい
た研修施設の先生方、リンショーピング大学の先
生方、さらに陰ながら支えてくださった発達臨床
学科の教員・スタッフの皆様に感謝いたします。

【別表 1. スウェーデン幼児・児童教育研修のスケジュール】

	日付	都市名	交通機関	日程内容
1	2月17日 (日)	仙台駅 東京駅 東京駅 成田空港	発 13:26 着 15:08 (新幹線はやて 24号) 発 15:40 着 16:42 (成田 EX37号)	集合 13:00 仙台駅 成田空港からホテルへ (・ ・ ・各自) [成田空港泊: 成田エアポートレストハウス]
2	2月18日 (月)	東京成田国際空港 コペンハーゲン マルメ	発 12:30 SK-984 着 16:05 (航空機) 発 16:26 (電車) 着 17:00	集合 10:00 成田空港第1ターミナル スカンジナビア航空にて空路コペンハーゲンへ。[所要時間 11.35h] 到着後、電車にてマルメへ。 (朝食・機内・各自) [マルメ泊: HOTEL ELITE SAVOY MALMO]
3	2月19日 (火)	マルメ ヘルシンボリ	発 14:00 (貸切バス) 着 15:30	朝食後、半日自由研修 15:30 ホテル着 (朝食・各自・各自) [ヘルシンボリ泊: STF HOSTEL & MIATORP]
4	2月20日 (水)	ヘルシンボリ 半日自由研修	発 8:00 (路線バス) 着 8:10 発 13:00 (徒歩) 着 13:30 発 16:00 (路線バス) 着 16:20	朝食後、自然学校 Miljöverkstaden 訪問 9:00-13:00 自然学校 Miljöverkstaden (昼食炊飯) 13:30 半日自由研修 (Dunkers Kulturhus, Kärnan) 16:20 ホテル着 (朝食・昼食・各自) [ヘルシンボリ泊: STF HOSTEL & MIATORP]
5	2月21日 (木)	ヘルシンボリ ヒルテ ヨーテボリ	発 7:00 (貸切バス) 着 8:50 発 13:00 (貸切バス) 着 16:00	朝食後、アウトドア環境教育推進校訪問 (プリスクール) 9:00-13:00 ヒルテの Erias Fries Skolan 訪問 14:00 昼食 (ドライブイン) 16:00 ホテル着 (朝食・各自・各自) [ヨーテボリ泊: STF HOSTEL GOTHENBURG]
6	2月22日 (金)	ヨーテボリ	発 8:30 (路線バス) 着 8:50 発 16:00 (路線バス) 着 17:00	朝食後、アウトドア環境教育推進校訪問 (小学校) 9:00-14:00 Noleredsskolan 訪問 11:30-12:30 lunch (昼食は学校給食) 12:30-13:30 outdoor education seminar 17:00 Haga 散策 21:00-22:00 アウトドア環境教育セミナー (振り返り) (朝食・昼食・各自) [ヨーテボリ泊: STF HOSTEL GOTHENBURG]
7	2月23日 (土)	ヨーテボリ 終日自由研修	徒歩	朝食後、終日自由研修 海洋博物館, 科学館 Universeum, 自由散策 18:00 ホテル着 (朝食・各自・各自) [ヨーテボリ泊: STF HOSTEL GOTHENBURG]
8	2月24日 (日)	ヨーテボリ リンショーピング ノルショーピング	発 8:00 (貸切バス) 着 14:00	朝食後、ノルショーピングへ移動 Gamla Linköping 散策 14:00 STF Hostel Norrköping Turistgården 着 (朝食・各自・各自) [ノルショーピング泊: STF Hostel Norrköping Turistgården]
9	2月25日 (月)	ノルショーピング	発 8:30 (路線バス) 着 8:50 発 13:00 (路線バス) 着 13:30 発 15:30 (徒歩) 着 16:00	朝食後、施設見学 9:00-11:30 特別支援学校 Grundsärskola 訪問 (Skarphagsskolan) 11:30-12:30 学校昼食 14:00-16:30 リンショーピング大学ノルショーピングキャンパス訪問 (幼児教育セミナー、プリスクール教員養成プログラム) 16:30 市内散策 18:00 ホテル着 (朝食・昼食・各自) [ノルショーピング泊: STF Hostel Norrköping Turistgården]
10	2月26日 (火)	ノルショーピング コペンハーゲン	徒歩 発 14:30 (電車) 着 18:30	朝食後、ノルショーピングキャンパスへ 9:00-10:30 アウトドア環境教育セミナー (ノルショーピングキャンパス) 11:00 市内散策、昼食 19:00 ホテル着 (朝食・各自・各自) [コペンハーゲン泊: BEST WESTERN MERCUR HOTEL]

11	2月27日 (水)	マルメ コペンハーゲン 半日自由研修	徒歩	朝食後、自由研修 9:00-11:00 プリスクール Lorensborgs Förskola (マルメ SEA-U) 訪問 (心理コース 10名 : 西浦) プライエム Nybodergårdens plejehjem (福祉コース 7名 : 熊坂) 13:00 半日自由研修 (Nyhavn など) 18:00 ホテル集合 (朝食・各自・各自) [コペンハーゲン泊 : BEST WESTERN MERCUR HOTEL]
12	2月28日 (木)	半日自由研修 コペンハーゲン	発 15:40 SK-983	12:00 コペンハーゲン国際空港集合
13	3月1日 (金)	東京成田空港 成田空港 東京駅 東京駅 仙台駅	着 10:40 発 13:15 着 14:14 (成田 EX24) 発 14:40 着 16:33	15:40 仙台駅解散

【別表 2. 研修・施設訪問】

訪問日時	訪問施設	通訳	食事	備考
2/20 9:00-13:00	ヘルシンボリ自然学校 Miljöverkstaden Fältarpsvägen 60 252 75 Helsingborg, Sverige	通訳付	野外炊飯	
2/21 9:00-13:00	ヒルテ Erias Fries Skolan 314 34 Hyltebruk, Sverige	通訳付		
2/22 9:00-14:00	ヨーテボリ Noleredsskolan Nolereds Skolväg 1, 423 32 Torslanda, Sverige	通訳付	学校給食	
2/25 9:00-11:00	ノルショーピング Skarphagsskolan Lövstagatan 38 603 80 Norrköping, Sverige	通訳付	学校給食	
2/25 14:00-16:30	リンショーピング大学ノルショーピングキャンパス Bredgatan 33 602 21 Norrköping, Sverige	通訳付		
2/26 9:00-10:30	アウトドア環境教育センター Campus Valla 581 83 Linköping, Sverige	通訳付		ただし、本講話はノルショーピングキャンパスにて実施した。
2/27 9:00-11:00	マルメ Lorensborgs Förskola (SEA-U) Vilebovägen 31, 217 63 Malmö, Sverige	通訳付		

【別表 3. 宿泊先ホテル】

2/17-18 (1泊)	成田空港近郊	成田エアポートレストハウス
2/18-19 (1泊)	マルメ Malmö (Sweden)	ELETE HOTEL SAVOY MALMÖ Norra Vallgatan 62, Malmö TEL:+46 40 664 4800
2/19-21 (2泊)	ヘルシンボリ Helsingborg (Sweden)	STF MIATORP Planteringsvägen 71, Helsingborg TEL:+46 42 13 11 40
2/21-24 (3泊)	ヨーテボリ Göteborg (Sweden)	VANDRARHEM STIGBERGSLIDEN AB Stigbergsliden 10, Göteborg TEL:+46 31 24 16 20
2/24-26 (2泊)	ノルショーピング Norrköping (Sweden)	NORRKÖPINGS TURISTGÅRD AB Ingelstagatan 31, Norrköping TEL: +46 11 10 11 60
2/26-28 (2泊)	コペンハーゲン Copenhagen (Denmark)	BEST WESTERN MERCUR HOTEL Vester Farimagsgade 17, Copenhagen TEL: +45 33 12 57 12